

2021 年 1 月 24 日(4 週目) 主日礼拝

「靈的戦いの運動をしましょう」(1 サムエル 7:5-12)

信仰の者にとっては、何の問題でもない。旧約聖書において、ヨシュアからエステル記まで歴史書である。その中で、サムエルとダビデが信仰で勝利をしたことが書かれている。神様が用いられた特徴を学ぶように。私達が、サムエル、ダビデのような答えを受けるためには、どのような信仰を持つていくのか。

1.エリとサムエル(祭司)	2.サウルとダビデ(王)	3.靈的戦いの勝利の道
▲エリとサムエルは祭司であった。祭司を通して、罪が赦されていくようにされた。祭司が生贄の重要性をわからない時に問題がくる。 1)生贄を捧げる役割を忘れたエリと息子(1 サム 2:17) (1)ホフニとピネハス(エリの子供)は生贄の価値を無視して、生贄に捧げる物を食べてしまった。 (2)福音の価値をわからずにいた。 —エリと家族は大きな問題に直面をする。 2)サムエルは子供の頃から福音の重要性をよく知っていた。 (1 サム 2:18、I サム 3 : 3) (1)主はサムエルのような忠実な祭司を起こす事を計画した(1 サム 2:35) —忠実な祭司はキリストの雛形である。 (2)子どもたちに福音の重要性を教えるべきである。 (3)サムエルは福音の力を知って福音に頼りながら歩んだ。 3)ミツパ運動—偶像を取り除きただ神を信じる(I サ 7:3—12) (1)ペリシテ人がせめてきた—暗闇の力の攻撃である。 (2)サムエルは全焼の生贄を捧げた(1 サム 7 : 9-10)。 (3)主はペリシテ人をかき乱し、大勝利を与えられた。 —ペリシテ人に勝つことは不可能だが神様の力でこそ可能。 (4)ただキリストにより頼まなければいけない。 —ただキリストによって、災い・サタンが砕かれる。 (5)エベン・エゼルの答えが与えられた(I サム 7:14)。 —「ここまで主が私たちを助けてくださった」 (6)私達が、靈的な戦いをする時に、主の助けがある。	▲サウル王とダビデ王がいた。ペリシテ軍に勝利をするためには、ただ主に依り頼むこと、特に全焼の生贄を捧げることが必要である。 1) 全焼の生贄を自分で捧げた(サウル王) (1 サム 13 : 12-13) (1)戦いの勝利の為に全焼の生贄が必要 (2)サウル王は自分で全焼の生贄を捧げた。 —全焼の生贄は祭司であるサムエルが捧げるべきであったのに焦ってしまった。 (3)福音を正確に信じるべきである。 —自分の考え通りで歩むべきでない。 2)アマレクを聖絶をしなかった(サウル王)。 (1 サム 15 : 22-23) (1)主はアマレクを聖絶するように言われた。 —主はサタンに対する敵対心を持っていた。 (2)サウルは家畜を聖絶しなかった。 —サウルは家畜をもったいないと思った。 (3)サウルはサタンに対する敵意が無かった —王位から退けられるように宣言をされた。 (4)主はサウルに代わりダビデを用意された 3)靈的な戦いをした(ダビデ)(1 サム 17 : 47-49) (1)ダビデは悪魔に対する敵意を持っていた —ダビデはゴリアテと戦い勝利をした。 (2)ダビデは、神様に対する信頼とサタンに対する敵意を持っていた。 (3)サウル王はサタンに対しての敵意ではなくて、ダビデに敵意を持ち殺そうとした。 (4)ダビデはサウル王に敵意を持たなかった。 —ダビデの敵はサタンであることを分かっていたので、靈的な戦いをした。 (5)ダビデが勝利をして、王となる。 —靈的な戦いをしたダビデは最高の王	▲神様はキリストを遣わした。キリストを味わうことが、靈的な戦いに勝利出来る道がある。 1)キリストが完了をした(真の王、真の祭司、真の預言者) (1)キリストは罪・呪いを解決して、サタンの頭を踏み砕く。 (2)キリストが贖い、私達のために代価を支払って下さった。 (3)救いの働きの為に神の御子を遣わして下さった。 2)インマヌエル(キリストが私の内に共に生きている) (1)私達が勝利出来るようにキリストが私の内に生きている。 (2)サタンは自分のやり方で生きていくようにさせる。 (3)キリストを通して聖霊が私達の内面に臨まれた。 —キリストが私の内に生きておられる(ヨハ 14:20)。 (4)私はキリストと共に十字架につけられて死んだ(ガラ 2:20) —創 3 章の自分の体質は十字架につけられて死んだ。 —私の内に生きておられるのがキリストである。 —キリストが私の主人となるように。 —キリストの力が現れるので旧約の人物以上となる。 (5)キリストのように生きるようになる。 3)神の子供— ローマ 8:15 (1)キリストが 100%現れる時に神様の子供の祝福が臨む。 (2)私は神の子供—キリストの兄弟である(全ての権利を持っている)。 (3)御子キリストと同じような祝福が臨まれる。 4)キリストの代任の務め—ヨハネ 20:21 (1)王の務め：サタンを打ち砕く王 (2)祭司の務め：癒しの働きをしていく。 (3)預言者の務め：伝道者として用いられる。 (4)キリストは、弟子を立て、癒しを成し遂げ、サミットに伝道した。 —キリストと一体となった祝福を味わう時に、 「靈的な見張り人、靈的な医者、靈的なサミット」の答えを受ける。 5)祈りを通して味わう。 (1)キリストと一体となった祝福に集中して祈りをする時、 キリストの力が現れるようになる。 ▲結論 (1)靈的な戦いをする者となれるように。 (1)ただキリストだけで満たされるように—キリストと一体となった。 (3)キリストだけが生きキリストの証人となれるように。 (4)全ての病が癒され、癒しをなしていくものとなれるように。

現場地教会(2021 年 1 月 24 日～2021 年 1 月 30 日)

【賛美】「イエスわが王よ」

- 1) イエスわが王を賛美で迎えん 栄光の主の御座を もうけたまえ主よ
私は神のもの ゆえに神にささげん 御心のままにおさめよ 主イエスよ
2) イエスわが王よ ここに来られ われが主にささぐ 賛美受けたまえ
われは主のしもべ 主はわれらのきみ 主なるイエス来られ 賛美を受けたまえ

【使徒信条】

我は天地の造り主、全能の父なる神を信ず。我はその独り子、我らの主、イエス・キリストを信ず。主は聖霊によりてやどり、おとめマリアより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死にて葬られ、よみにくだり、三日目に死人のうちよりよみがえり、天にのぼり、全能の父なる神の右に座したまえり、かしこより来たりて、生ける者と死にたる者とを審きたまわん。我は聖霊を信ず、聖なる公同教会、聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、とこしえの命を信ず。アーメン

【メッセージ】 「霊的戦いの運動をしましょう」(1 サムエル 7:5-12)

【讚美】 400 十字架の旗、主の真理

【祈り】

①教会の祈りの課題

- ・元旦メッセージ:「サタンを踏み砕く」ローマ 16:20、
「次世代を生かす歩みとなる 30 年」ローマ 16:25-27
 - ・御国イザヤ牧師に聖霊充滿と 5 つの力が与えられるように。
- ②現場地教会の聖徒の中で欠席された方、問題、病にある方、新しい家族のために。
③現場地教会参加者の祈りの課題(集まった聖徒の祈り課題を付箋に記入)のため。

【フォーラム】

【祈り】

【主の祈り】

天にましますわれらの父よ。ねがわくは、御名をあがめさせたまえ。御国をきたらせたまえ。みこころの天になるごとく、地にもなさせたまえ。我らの日用の糧を、今日も与えたまえ。我らに罪をおかす者を、我らがゆるすごとく、我らの罪をもゆるしたまえ。我らをこころみにあわせず、悪より救いだしたまえ。国とちからと栄えとは限りなくなんじのものなればなり。 アーメン

福音宣教教会 祈り題	1. 福音宣教教会(ローマ 16:20、25-27) 2. 主任牧師(使徒 6:4、アモ 3:7、創世記 18:17) 3. レムナント(イザヤ 6:13) 4. 癒し(使徒 19:8-20) 5. 日本神学校、東日本神学校(Ⅱ列 6:8-23) 6. 200 都市(創世記 41:36-38) 7. 1000 大学(使徒 19:9-10) 8. 日本総会教会(使徒 6:4、コロ 4:2-3) 9. 日本 8000 教会(使徒 17:1-3) 10. 本部、柳牧師(138、14、24、25、00、237) 11. 日本をキリスト教国家とする(使徒 18:9-10) 12. 237 宣教、太平洋・インド洋宣教(マタ 24:14、使徒 1:8)
契約の祈り (主日礼拝)	
お知らせ	1. 1/27(水) 日本語学校設立ヒヤリングのためにお祈りください。 2. 2/2(火)-4(木) 10:00～ 世界大学修練会(RUTCtv ライブ放送) ※専門別特別講義は登録者を対象に Zoom にて開催されます。 3. 2/12(金)-13(土) 10:00～ TCK 修練会 申込担当者: 鶴見愛香牧師夫人 4. 2/13(土) 10:15～ 世界青年リーダー修練会(RUTCtv ライブ放送)
福音宣教教会 主管牧師: 御国イザヤ 名古屋市中区栄 5 丁目 23-8 / tel: 052-238-6003 主日(日曜) 1 部礼拝 7:00 / 2 部礼拝 10:00 / 3 部礼拝 12:00	